

## 式 辞

新入生の皆さん、ご家族の皆さま、ご入学、誠におめでとうございます。日本体育大学を代表して、心から歓迎の意を表します。

本来であれば、東京・世田谷キャンパスメインアリーナにて、新入生の皆さんの門出を御家族、在学生・教職員で盛大にお祝いする予定でおりました。ところが、本年2月以降、新型コロナウイルス感染症が国内外にて予期せぬ早さで拡大しており、令和2年度入学式の中止を判断せざるを得ない状況となりました。皆さんにとって安全で安心できる学生生活を迎えてもらうことこそ、我々教職員にとって最大の責務だと考え、人生の大きな節目となる入学式ではありますが、このような心苦しい選択に至りました。

また、日体大は、オリンピック・パラリンピックの精神を体現し、国際平和の使者たることをその使命に掲げています。しかし、いま世界を見渡せば、その平和がみえない脅威によって侵されようとしています。本学でこれがさらに増幅するような状況を生み出すことは絶対に許されません。

新入生、御家族の皆さまには、こうしたわたしたちの想いに御理解賜りたくお願い申し上げますとともに、こうして歓迎の辞をお伝えしなければならないことをお許しください。

本学は、その母胎を1891年に設立された「体育会」とし、このとき、創設者である日高藤吉郎が掲げた、「體育富強之基」(「体育は、富国強兵の基本である」)を建学の精神としています。

やがて、1949年の日本体育大学体育学部設置に際し、国際平和の実現に寄与する国づくりを念頭に、その精神は、「体育は肉体を、より強靱に、そして豊かにする基礎である」と解されるようになりました。

さらにその後、本学がこれまで、一貫して、体育・身体活動・スポーツを基軸に、全ての人々の願いである“心身の健康”を育み、あわせて世界レベルの優秀な競技者や指導者の育成を追究してきたことに鑑み、今日その建学の精神は、「真に豊かで持続可能な社会の実現には、心身ともに健康で、体育スポーツの普及・発展を積極的に推進する人材の育成が不可欠である」、との現代的解釈が加えられています。

とりわけ、1964年の東京オリンピックは、本学がトップアスリートの養成に力を注ぐ契機となり、以来、日本のスポーツ界の国際競技力向上に大きく貢献しています。そして、その成果は、オリンピック・パラリンピックのメダル133個が、本学関係者の手によってもたらされ、世界に誇るべき実績として、日体大を燦然と照らし続けます。現在、あらゆるスポーツで優れたアスリートや卓越したコーチたちが、本学学生、教職員として多数在籍し、大きな強みとして、他の大学の追隨を許しません。

しかし、日本体育大学が目指す姿は、ここだけにとどまりません。体育学部、児童スポーツ教育学部、保健医療学部では、人間の発達段階を基軸とした教育研究が展開され、乳幼児から学童、青年や成人、さらには高齢者まで、人の一生に寄り添い、健やかな生涯を設計する学問を修めまします。他方、スポーツ文化学部、スポーツマネジメント学部は、共時的な世界に基づいた教育と研究に主眼を置き、地域のコミュニティから地球規模のネットワークまで、新たな公共の活性化を促し、豊かな社会を創生する学問を究めていきます。

いずれも、本学の基本理念である、「体育・身体活動・スポーツを通じた健康で豊かな社会・人づくりの実現」を目指す学びの体系で、その活躍の場は、地球上のあらゆる場所と人びとに拓かれています。

さて皆さん、どんな想いを胸に今日を迎えていますか。それぞれの誓いや目標はどのように立てら

れ、それを実行するための計画は、どう描かれているでしょうか。自らの「夢」や「希望」、その「志」を改めてここで、確認してみてください。

中学生になって本格的に体操競技を始めたわたしには、「美しい体操で、多くの人びとを魅了し、オリンピックで金メダルを獲る」、という大きな「夢」そして「希望」がありました。

わたしたちが、何かを成し遂げようとするとき、まず取り組まなければならないのは、入念な『準備』です。『準備』を万全に整えたら、次はいよいよそれを、『実行』に移していきます。いざ、『実行』してみると、思わぬ失敗や、想定外の課題が浮き彫りになったりします。この時、自らを顧みる、『反省』が求められます。

特に、この『反省』がなければ、さらなる進歩は望めません。さらに、次の『準備』に活かすことができなければ、何も意味がないのです。『反省』を次の試合の『準備』、練習に繋げ、ひとつひとつ丁寧にその課題を克服していくと、大切な試合で失敗やミスは少なくなり、『反省』の輪も自ずと小さくなっていきます。『準備』と『実行』の輪をより大きく作りあげ、『反省』の輪を限りなく小さくすることで、理想の結果が生み出されるのです。

1984年のロサンゼルスオリンピック代表に選ばれたわたしは、大会直前の強化合宿の中で、実際の試合に向けた本格的な『準備』の輪を描き始めました。練習では来る日も来る日も、オリンピック本番での演技を具体的にイメージしながら、何度も繰り返し試し、万全の態勢で試合当日を迎えました。結果、その日は、『準備』の段階と同じくらい、大きな『実行』の輪が鮮明に描け、理想とするパフォーマンスを発揮することができました。体操競技を始めた頃からの「夢」であった、オリンピックの表彰台で、わたしは君が代を聴くことができたのです。

オリンピックで金メダルを獲得するために、なにをどこまで、『実行』すれば良いのか、真剣に考え、練習という『準備』を幾重にも積み重ねました。そして、自らの努力次第で、いかなる結果をも導き出すことが可能なのだと確信しました。

さあ皆さん、今日から、この日体大で、それぞれの「夢」や「希望」を叶えるべく、『準備』『実行』『反省』の輪を、「急がず、休まず、忍耐強く」、何度も何度も繰り返し、描いてみてください。もし、その途中で、新たな「夢」や「希望」に巡り会うことができたのなら、その変化も大いに受け容れてください。大きく視野を拡げ、自らの「夢」や「希望」を素直に、そしてゆっくり時間をかけて描いていくために、与えてもらった貴重な時間です。

これからの4年間、必ずしも、思い描いた通りの学生生活が送れるとは限りません。悔しいことや恥ずかしい思い、様々な経験を重ねていくことになるでしょう。学業や対人関係、就職活動の不安、競技成績の不振など、それなりに辛い、苦しい状況に幾度となく置かれることもあるでしょう。「夢」や「希望」を叶えるために試行錯誤を重ね、そのたびに自らを冷静に顧み、立ちはだかる強固な壁を突破していけば、その先には向上の一路(新たな悟りの世界)があるはずです。

すぐ傍には、同級生、先輩、我々教職員がいます。また、図書館をはじめ、学生支援センターや国際交流センター、健康管理センターなど、皆さんの学生生活をあらゆる側面からサポートする仕組みも十分に整っています。キャンパスのあらゆるところに、問題解決のためのヒントやアドバイスがあり、『準備』『実行』『反省』の輪を描く大きな手助けになってくれることでしょう。

ひとりひとり、その初志を全うし、最も美しい個の華、「夢」を咲かせてください。皆さんの「自己実現」に向け、我々教職員は一丸となって、そのための環境を整えていくことを改めてここにお約束します。

既にご案内の通り、新型コロナウイルス感染症による種々の影響に鑑み、令和2年度前学期の

授業開始日、開始時刻を変更することと致しました。本学が定める履修規程に関わらず、1 限授業の開始時刻を9時20分とし、昼休みを70分に延長することにより、通学時の各交通機関における混雑の最盛期を避け、キャンパス内でのゆとりを確保できるよう配慮します。

また、授業の展開に際しては、教室・体育館等の教場における換気やアルコール消毒液の設置、施設・用具の除菌等、衛生管理を徹底し、教育体制の確保に日々努めます。新入生の皆さんも、各々ができ得る限りの対策を講じて、安心して毎日の生活に臨めるよう、心掛けて戴きたいと思っております。

このようなかたちで皆さんを日体大にお迎えするとは、誰もが予想だにしなかったことです。驚きと不安を抱えたなかでの新生活のスタートとなりますが、刻々と変化する事態にも柔軟かつ適切に対応できる力を、これを機に体得してください。

オリンピック東京大会の開催まで、暫しの時間を要することとなりました。オリンピックの価値や意義について、これまでに考えたことはありますか。「人類にとって、オリンピックとは如何なる存在なのか」「現代社会におけるオリンピックの価値は何処にあるのか」、選手、ファン、競技団体、スポンサーなど取り巻くそれぞれの立場から、この機会に改めて根源的な問いかけを試みてください。冒頭申し上げたとおり、日体大に学ぶ皆さんは、オリンピック・パラリンピックの精神の実践と普及を推し進め、スポーツが有するさまざまな「力」を活用して、国際平和の実現に寄与することが求められています。だからこそ、いま一度、オリンピック・パラリンピックの在り方を自らに問いかけ、それぞれの答えを導き出して欲しいのです。これから学ぶ授業から、多くの示唆を得ることができるはずです。

皆さまにとってかけがえのない一日を、このようにお祝いするより他になかったことにつきまして、改めて、お詫びを申し上げます。

令和2年4月3日  
日本体育大学  
学長 具志堅 幸司